

**第2回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会  
議事概要**

事項	第2回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 議事概要	出席者	10名 (随行者・事務局除く)
日時	平成27年1月27日(火) 14:00~16:00	場所	兵庫県学校厚生会館 2F大会議室
内容	1 開会 2 議事 (1) 第1回協議会の主な意見と対応について (2) 第2回ワーキングの主な意見と対応について (3) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(原案) (4) 「そなえる」対策の取組み事例紹介 3 その他(連絡事項) (1) スケジュールについて 4 閉会		
資料	議事次第、出席者名簿、配席図 【資料1】 第1回協議会の主な意見と対応について 【資料2】 第2回ワーキングの主な意見と対応について 【資料3】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(概要版) 【資料4】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(原案) 【資料5】 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(原案) 説明資料 【資料6】 集中豪雨時の浸水想定 説明資料 【資料7】 「そなえる」対策の取組み事例紹介 説明資料 【資料8】 スケジュール		

**1 開会**

**2 議事**

- (1) 第1回協議会の主な意見と対応について
- (2) 第2回ワーキングの主な意見と対応について
- (3) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(原案)

事務局は、【資料1】第1回協議会の主な意見と対応について、【資料2】第2回ワーキングの主な意見と対応について、【資料3~6】神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画(原案)の説明を行った。

主な意見

(県民構成員) 妙法寺川上流で土砂災害が起きた場合は川が埋まると思うが、その時の被害はどの程度になるのか。

(事務局) 広島では3時間で200mmの雨が降ったが、砂防施設が整備されていなかったため、土砂が流出してきた。神戸は整備が進んでいるので、土砂の大部分は止めることができると思われる。

(会長) 流出土砂により川が堰き止められ、水が溜まってきてそれが一気に崩れ出すのが最も怖い。六

甲山地には砂防堰堤、治山ダムが多く作られているので、土砂はそこで捉えられ、川の中に出てくる量はそんなに多くはない。資料4のP66に示すように、妙法寺川でも砂防ダムの整備が進んでいる。

(県民構成員) 手づくりハザードマップ作りを菊水地区でしようというが、いつからどんな風にするのか、計画を知らせて欲しい。

(事務局) 来年度から取り組みたい。講演会を行って、手づくりハザードマップや推進計画について説明し、それから個別の取り組みに入っていきたい。スケジュールについても、今後、調整させて欲しい。

(市委員) 神戸市は県内でも河川整備は進んでいるが、維持管理も重要と考えており、市会からもその必要性についての意見をもらった。市長もその認識でいる。今は、予算等について議論しているところである。

(会長) 住民の方々にも、普段の川の流れがどのようなものであるかを日頃から観察してもらい、異常があればわかるようにすることが維持管理につながる。

(県民構成員) 昨夜の雨で、今朝は新湊川の水位が高かったのに、回転灯が回っていなかった。子供たちには、回転灯が回っていたら川に入ってはいけないと言っているのに、回ってないなら水位が高くても川に入っているのか、となってしまう。なぜ、回らないのか？

(事務局) 新湊川の回転灯は2種類ある。大雨注意報で回るものと、新湊川周辺の降雨観測所の降雨と水位から、今までのデータを基に今後の水位を予測し、それが基準以上になると回るものである。ただ、出前講座などで子供には、回転灯だけで判断するのではなく、自分の目で確認し、上流の方に黒い雲が出てきたとか、水位が高いとかというときは、川には入らないように言っている。

(県民構成員) 回転灯が回っていて水が出ないのはいい、回っていないのに水位が高いのが問題である。特に夏場など、子供が水に近づきやすい時が問題である。

モデル地区で「新湊川・長田南部地区」は川が長いのに、手づくりハザードマップ作りは上流の菊水地区となっているが、下流の長田区でも考えてはどうか？

(事務局) 水位と回転灯を連動させることは難しい。あくまでも緊急避難のための回転灯である。

各地区でハザードマップの有効性をPRして、モデル地区にこだわらず、全地域に広めていきたい。防災コミュニティの方から、やりたいと手を挙げてもらえれば、入っていく。

(県民構成員) 六甲山地は、広島と同じマサ土だというし、山と海が近く勾配が急なので、何とか土砂災害に対処してほしい。

(会長) 昭和13年の阪神大水害以降、国でも直轄工事を始めて、現在までの進捗率は60%程度とまだ終わっていないが、多くの砂防施設ができており、土砂の流出も途中でキャッチし、市街地に出てくる量を少なくする工夫をしている。

神戸では地下河川も多く、その入り口に土砂が溜まると困るが、広島のように土砂が100%市街地に流れ出すというのは、状況が違うと思う。

(県民構成員) 治水と治山は別々に対策を行っているが、一体のものであるべきである。急傾斜地は県の扱いになっているが、ハラハラするような場所に家が建っている。住民も国・県・市と一体となって、取り組むべきと思っている。

(会長) 治山から砂防、治水、港湾までを含んだ、水系一環で災害に対して取り組んでいく必要がある。

(県民構成員) 地震で崩れる個所は、どのくらいあるのか？

(会長) 南海トラフ地震だと、神戸の山で怖いのは、継続時間が長いものである。震度は阪神淡路大震

災時より弱い。一番、危険なのは埋め立て地である。

(県民構成員) 今は宅地でも、昔はため池というのが多いのだが

(会長) ため池の多くは埋め立てられているが、ため池の液状化は怖い。

(県民構成員) そういう所は土地が安いので、そこを買って家を建て、災害が起こったとしても自己責任である。

#### (4) 「そなえる」対策の取組み事例紹介

事務局は、【資料7】「そなえる」対策の取組み事例紹介の説明を行った。

##### 主な意見

(県民構成員) 昼間には健常者が地域にいない、という想定のもとで訓練を行った。中学生と神戸市消防音楽隊の合同演奏を親は見に来るが、終わると訓練には参加せず帰ってしまう。関心の低さが問題である。中学生や大学生と連携して訓練を行ったが、防災だけでなく防犯にも広げられる。

南海トラフ地震で、継続時間や震度についての情報がいろいろあるが、何が正しいのか？

(会長) 南海トラフは、どこから破壊しだすかで揺れの継続時間も変わってくる。

(会長) 資料4(原案)の修正について意見があれば、私の方でとりまとめ修正し、どこを修正したかを私から伝える。ということで資料4の承認を得られたと考えたい。

(県民構成員) 承認

### 3 その他(連絡事項)

(事務局) 本日の意見も含めて修正、若干の追加を行い、2月中旬からパブリックコメントの手続きを実施する。寄せられた意見とその対応については、各委員に伝える。また、大幅な変更を伴わない限り、修正は沖村会長に一任し、推進計画(案)としたい。承認決裁を得た上で、3月中には推進計画を策定完了したい。

次年度以降は、進行管理(計画のフォローアップ)を行うので、委員の方々には引き続きよろしくお願ひしたい。

## 5 閉会

第2回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 出席者一覧

(順不同、敬称略)

属性	委員氏名	主な役職	出欠	代理人氏名	代理人役職
学識経験者	沖村 孝	神戸大学名誉教授	出席		
兵庫県	太田 和成	神戸県民センター長	出席		
神戸市	末永 清冬	神戸市建設局長	代理出席	畑 恵介	建設局下水道河川部長
県民	渡辺 利信	(東灘区) 住吉川清流の会会長	出席		
	大森 末弘	(灘区) 河原自治会長ほか	出席		
	後藤 實	(中央区) 生田自治連合会長ほか	出席		
	中井 末治	(兵庫区) 菊水地区防災福祉コミュニティ委員長ほか	出席		
	渡邊 攝子	(兵庫区) 湊山地区防災福祉コミュニティ委員長ほか	欠席		
	岸本 圭吉	(長田区) 番町地区防災福祉コミュニティ本部長	出席		
	佐々木 利雄	(須磨区) 大黒地区防災福祉コミュニティ本部長	出席		
	岡松 治利	(垂水区) 垂水区自治会連絡協議会会長	出席		

議事録確定署名人

座長:神戸土木事務所 所長補佐(企画調整担当)

樋口 俊光

神戸土木事務所 副所長

前田 優夫